北千葉道路ニュース

きたちば
どうろニュース

vol.3

2011年3月25日発行
千葉県北千葉道路建設事務所
〒286-0017 成田市赤坂2-1-14
TEL 0476-28-1411
編集・発行

地域の願いをつなぐ北千葉道路

北千葉道路(一般国道464号)は、事業化されている印西市若萩から成田市大山までの13.5km区間の開通に向けて着実に整備を進めています。

この道路が整備されることにより、首都圏北部や県西地域と成田国際空港間のアクセス強化が図られるとともに、沿線地域相互の交流・連携の促進、物流の効率化など地域の活性化に寄与します。

北千葉道路の道づくりは、将来の地域づくりを担う子どもたちと共に考え、豊かな自然環境を育くむ活動を未来へつなげながら、地域の願いの実現に向けて進めています。

子ども会議 こどもかいぎ

印旛沼の素晴らしい自然環境を守り、永く愛されるみちづくりを行うため、未来を担う子どもたちによる「北千葉道路子ども会議」を平成20年度から行っています。

この会議では、北千葉道路の工事現場や印旛沼の自然などを見学し、北千葉道路や印旛沼の将来の姿を話し合うワークショップなどの活動を行っています。

平成21年度から北千葉道路の調整池を利用したビオトープづくり活動を行っており、平成22年度は、10月と1月の2回、いには野小学校の4年生がビオトープづくりに向けた調整池周辺の動植物の状況調査、水路や湧水などの水温調査を行いました。また、現地調査の他にビオトープの一部となる土のう造り体験を行いました。

今年度に実施した調査等のまとめは、平成23年度の4年生の子どもたちに引き継がれ、継続した活動を行うこととしています。

印旛沼をまたぐ！北千葉道路

平成22年10月より、印旛沼渡河橋の桁架設工事が始まりました。桁は、成田新高速鉄道との一体下部工(中面下④参照)の上に架設され、印旛沼を渡河する両岸から沼の中央に向けて工事が進められています。約450mある桁のうち両岸からそれぞれ約110mの桁が架設され、印旛沼に架かる橋の姿が徐々に見えてきました。

(平成23年3月撮影)

印旛沼周辺の生物❺
ヨシゴイ

ヨシやマコモの繁みにすむサギ科の夏鳥。冬は、東南アジアなど南方へ渡る。"オー・オー"や"ウー・ウー"と鳴く。

撮影:浅野俊雄氏

成田新高速鉄道と北千葉道路が北印旛沼を渡ることにより、その周辺にすむ湿地性希少鳥類の生息に影響を与える可能性があることから、その代償措置として「北須賀工区」と「大竹工区」の2箇所で、新たなヨシ原の整備を行っています。

北須賀工区のヨシ原造成は、沼の中の既存ヨシ群落に隣接した場所で、盛土による4つの島を造成したのち、ヨシの植栽を行っています。平成18年度から植栽されたヨシは順調に生育し、背丈が3m前後となった群落を形成しています。

大竹工区のヨシ原造成は、堤防の沼側と陸地側に広がる高く乾燥した地盤を掘削し、地下水で湿った地盤が表面となるように造成したのち、ヨシの植栽を行っています。平成20年度から植栽されたヨシは、背丈が1.5m程度となり、水路や池では、浮葉植物であるアサザや沈水植物であるガシャモクなどが新たに確認されました。

ヨシ原の造成 ぞうせい

地層の勉強に役立った 北千葉道路の工事現場

北千葉道路の建設現場に近い「いには野小学校」では、瀬戸地区の工事現場に現れた地層を校舎の中に再現しました。工事現場にて各地層を採取し、校舎の壁面に貼り付けられた地層をみると、かつてこの地域が海であったことを知ることができます。

校舎の入口の壁に貼られた地層を再現したパネル

①関東ローム
②凝灰質粘土
③細砂
④粘土
⑤細砂
⑥貝殻混じり細砂

成田新高速鉄道と北千葉道路の事業概要、成田湯川駅や印旛沼渡河橋の模型、発掘された埋蔵文化財などを展示しています。是非お立ち寄り下さい。

成田新高速鉄道・北千葉道路　インフォメーションセンター
(成田市北須賀1622-2　印旛沼漁業協同組合内会議室)　木曜日休館